さくらんぼ「山形Ｃ12 号」（やまがた紅王）の選りもぎによる商品果率向上

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所

研究のねらい

さくらんぼ「山形Ｃ12 号」では、樹の上部や外周部の日当たりの良い枝で、着色が濃くなり過ぎて果皮が赤黒くなった果実（以下、過着色果）や、果皮表面にカスリ状の障害が生じた果実（以下、カスリ果）（図１）等の障害果の発生が見られる。そこで、選りもぎによる障害果の軽減及び商品果率向上について明らかにした。

研究の成果

①　「山形Ｃ12 号」を収穫する際、２～５日間隔で複数回に分けて、収穫適期に達した果実を選りもぎすると、収穫期後半に一斉収穫するよりも収穫果実全体では障害果の割合を低く抑えられ、商品果率が向上する。果実全体に色がついた特秀品を収穫しているため、特秀品割合を高めることができる（図２、図３）。このことから、「山形Ｃ12 号」の収穫は一斉収穫よりも選りもぎが適する。

②　選りもぎを行うことによる、ウルミ果※等の果実品質への悪影響はみられない（データ省略）。

※ウルミ果：果皮に透明感があり、果肉が水浸状になって軟化する症状

③　食味を確認したうえで、樹冠の外周部や樹上部等の着色・熟度の進んだ果実から、優先的に選りもぎを行う。特に、収穫期に高温が予想される場合は、もぎ遅れないように、積極的に行う。



図１　カスリ果

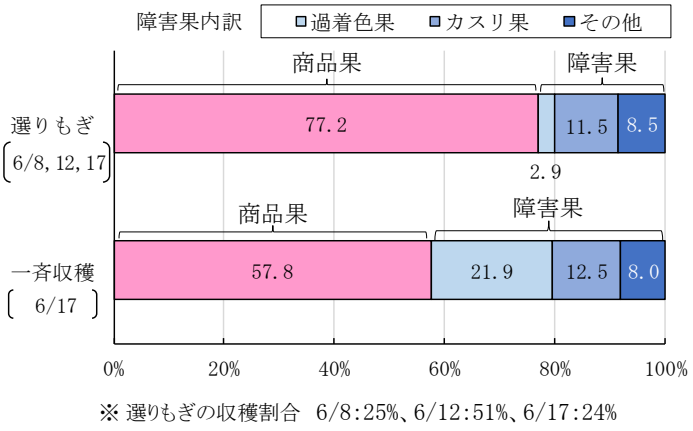


図２　収穫方法別の商品果割合（令和６年）

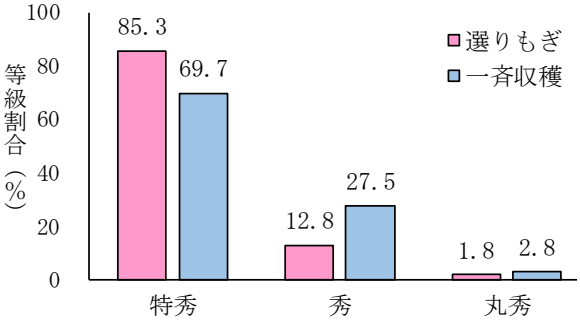


図３　収穫方法別の等級割合（令和６年）

問い合わせ先：果樹部　℡：0237-84-4125　e-mail：yenken@pref.yamagata.jp